

## いしかわ 石川のながれ

うめ さと さか そと  
梅の里の坂をくだり、外

かんじょう せん きん てつせん きゅう  
環状線、近鉄線、旧

ひくななじゅうごうせん  
170号線をこえてどん

どん ひがし いしかわ  
どん東へいくと、「石川」

かわ  
という川がながれています。



そのあたりの地名は「川面（かわづら）」といいます。川に面したところという意味です。200年ほど前までは、そこには舟がたくさんやってきて、にもつのあげおろしをし、商売をしていたそうです。ふるい歌には

きし かわづら こざいしょ りふね  
喜志の川面 小在所なれど どんどんどんと 舟がつく

（喜志の川面というところは 小さな村だけれども、

つぎつぎと 舟がやってきて にぎわっている）

と うたわれています。

とんだばやし 富田林では、いしかわ 石川の みず 水をつかった おいしい おいしい さけ お酒がつくられていたらしく、それらが、かわづら 川面から つみだ つみだされていたようです。また、かわち 河内もめん、めいさん 名産のなす、かいこ カイコからつくった きぬ 絹なども あったかもしれせん。

ふね 舟は いしかわ 石川をくだって やまとがわ 大和川をとおり、おおさかわん 大阪湾にでて、ぜんこく 全国へとつながっていきました。

ところで、ひゃくまんねん おおむかし(100万年ほど前)、いしかわ 石川には「あけぼの **アケボノソウ**」が すんで すんでいたといひます。いしかわ 石川で、あしあと その足跡がみつかっています (⇒)。



また、じだい やよい時代の むら むらのあとも みつ みつかっています。

むかし 昔から、いしかわ 石川は、どうぶつ 動物や にんげん 人間の せいかつ 生活の ば 場だったのですね。